



デバイス プールの設定

デバイス プールの設定では、複数のデバイスに共通の特性がまとめて指定されます。デバイス プールの構造では、ユーザ情報と位置情報の分離が可能です。デバイス プールには、デバイスと位置に関連する情報のみが格納されます。[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウには、使用されるソフトキー テンプレートの種類、ロケール情報などの、ユーザ向けの情報がすべて記録されます。ユーザ向けの情報を得るためには、各デバイスが、デバイス プールに関連付けられ、共通のデバイス設定に関連付けられている必要があります。

デバイス プールを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス プールの検索 \(P.9-2\)](#)
- [デバイス プールの設定 \(P.9-3\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.9-5\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.9-8\)](#)
- [関連項目 \(P.9-9\)](#)

デバイス プール、およびデバイス プールを通じて割り当てられるデバイス設定値の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「システム レベルのコンフィギュレーション設定」を参照してください。

共通のデバイス設定パラメータの詳細については、[P.93-1](#) の「[共通デバイス設定](#)」を参照してください。

デバイス プールの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイス プールが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定のデバイス プールを見つけることができます。デバイス プールを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、デバイス プールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、デバイス プールの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [デバイスプール] の順に選択します。

[デバイス プールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、**ステップ 3** に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.9-9の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイス プールの設定

デバイス プールを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。新しいデバイス プールをデータベースに追加した後、そのデバイス プールを使用して、Cisco Unified IP Phone、ゲートウェイ、会議ブリッジ、トランスコーダ、メディア ターミネーション ポイント、ボイスメール ポート、CTI ルート ポイントなどのデバイスを設定できます。

始める前に

デバイス プールに対して次の項目を選択する場合は、デバイス プールを設定するとき、事前に、その項目を設定しておく必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager グループ (必須)。P.4-4の「[Cisco Unified Communications Manager グループの設定](#)」を参照してください。
- 日付 / 時間グループ (必須)。P.6-3の「[日付 / 時間グループの設定](#)」を参照してください。
- リージョン (必須)。P.8-3の「[リージョンの設定](#)」を参照してください。
- SRST リファレンス (オプション)。P.19-4の「[SRST リファレンスの設定](#)」を参照してください。
- メディア リソース グループ リスト (オプション)。P.71-3の「[メディア リソース グループ リストの設定](#)」を参照してください。
- 自動登録用のコーリング サーチ スペース (オプション)。P.46-3の「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」を参照してください。
- 復帰コール フォーカス優先度 (オプション)。『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[保留復帰](#)」を参照してください。
- デバイス モビリティ グループ (オプション)。P.10-3の「[デバイス モビリティ グループの設定](#)」を参照してください。
- デバイス モビリティ コーリング サーチ スペース。P.46-3の「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」を参照してください。
- 物理ロケーション (オプション)。P.18-3の「[物理ロケーションの設定](#)」を参照してください。
- ロケーション。P.17-4の「[ロケーションの設定](#)」を参照してください。
- AAR グループ。P.31-4の「[AAR グループの設定](#)」を参照してください。
- AAR コーリング サーチ スペース。P.46-3の「[コーリング サーチ スペースの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [システム] > [デバイスプール] の順に選択します。

[デバイス プールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のデバイス プールをコピーするには、対象となるデバイス プールを見つけて (P.9-2 の「[デバイス プールの検索](#)」を参照)、コピーするデバイス プールの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 新しいデバイス プールを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存のデバイス プールを更新するには、対象となるデバイス プールを見つけて (P.9-2 の「[デバイス プールの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#)に進みます。

ステップ 3 適切なフィールドに値を入力します (表 9-1 を参照)。

ステップ 4 デバイス プール情報をデータベースに保存するには、[保存] をクリックします。

追加情報

P.9-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイス プールの設定値

表 9-1 では、デバイス プールの設定値を一覧表示し、説明します。関連する手順については、P.9-9 の「関連項目」を参照してください。

表 9-1 デバイス プールの設定値


フィールド名	説明
[デバイスプールの設定 (Device Pool Settings)]	
[デバイスプール名]	作成する新規デバイス プールの名前を入力します。
[Cisco Unified CM グループ]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified Communications Manager グループを選択します。Cisco Unified Communications Manager グループでは、最高 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位をリストで指定しています。リストの最初にある Cisco Unified Communications Manager はそのグループのプライマリ Cisco Unified Communications Manager となり、残りは冗長性を確保するためのバックアップ Cisco Unified Communications Manager となります。
[自動登録用コーリングサーチスペース (Calling Search Space for Auto-registration)]	Cisco Communications Manager に自動登録されるこのデバイス プール内のデバイスに割り当てる、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、コールを完了しようとするときにデバイスが検索できるパーティションを指定します。
[復旧されたコールフォーカスプライオリティ (Reverted Call Focus Priority)]	<p>保留復帰機能から起動される復帰コールに対する、クラスタ全体の優先度設定を選択します。この設定によって、どのコール タイプ (着信コールか復帰コール) がユーザの操作 (オフフックにするなど) に対して優先されるかが指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト]: このオプションを選択すると、着信コールが優先されます。 • [最高]: このオプションを選択すると、復帰コールが優先されます。 <p>[未選択] に設定すると、インストール時のデフォルト デバイス プールに対する復帰コールフォーカス優先度設定が指定されます。インストール時には、着信コールが優先されます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、この設定を選択できません。</p> <p> (注) この設定は、特に保留復帰コールに対して適用され、パークされた復帰コールには適用されません。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「保留復帰」を参照してください。</p>
[重要設定のローミング (Roaming Sensitive Settings)]	
[日時グループ (Date/Time Group)]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる日付/時間グループを選択します。日付/時間グループは、タイム ゾーン、および日付と時刻の表示形式を指定します。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)



フィールド名	説明
[リージョン]	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified Communications Manager リージョンを選択します。Cisco Unified Communications Manager リージョンの設定値は、リージョン内および他のリージョン間でコールに使用できる音声コーデックを指定します。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	ドロップダウン リスト ボックスから、メディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストに定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソース グループから、必要なメディア リソース (たとえば、保留音サーバ、トランスコーダ、会議ブリッジ) を選択します。
[ロケーション (Location)]	ロケーションは、コール アドミッション制御を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。コール アドミッション制御では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、電話機とゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定地域にあるデバイス プールの電話機とゲートウェイが使用するトーンおよび断続周期の定義を含んでいます。このデバイス プールを使用する電話機とゲートウェイのすべてがサポートしているネットワーク ロケールを選択してください。
	 <p>(注) ユーザがネットワーク ロケールを選択しない場合は、Cisco Unified Communications Manager clusterwide パラメータでデフォルト ネットワーク ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p>
	 <p>(注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。デバイスは、ファームウェアにおいてサポートしていないネットワーク ロケールと関連付けられると、起動に失敗します。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)


フィールド名	説明
[SRST 参照先 (SRST Reference)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスを選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disable] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスは SRST リファレンス ゲートウェイを使用できなくなります。 • [Use Default Gateway] : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはデフォルトの SRST ゲートウェイを使用します。 • 既存の SRST リファレンス : ドロップダウン リストから SRST リファレンスを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはこの SRST リファレンス ゲートウェイを使用します。
[接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)]	<p>この設定値は、IP Phone が SRST から登録解除され Cisco Unified Communications Manager に再登録される前に、Cisco Unified Communications Manager への接続を監視する時間を定義します。</p> <p>デフォルト値は 120 秒で、Connection Monitor Duration エンタープライズ パラメータに属します。</p> <p>コネクション モニタを使用不可にする (値を 0 に変更する) 必要がある場合、またはコネクション モニタの時間を延長する場合は、この設定値を変更します。</p> <p> (注) [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] の値を変更した場合、その値は更新されたデバイス プールだけに適用されます。それ以外のすべてのデバイスは、固有の [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドの値またはエンタープライズ パラメータで設定された値を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「SRST リファレンス」を参照してください。</p>
[物理ロケーション (Physical Location)]	<p>このデバイス プールの物理ロケーションを選択します。システムは、物理ロケーションとデバイス モビリティ機能を組み合わせて使用することで、特定の地域に関連したパラメータを識別します。</p>
[デバイスモビリティグループ (Device Mobility group)]	<p>デバイス モビリティ グループは、最上位レベルのネットワーク内の地域エンティティを表し、デバイス モビリティ機能をサポートするために使用されます。</p>
[デバイスモビリティ関連情報 (Device Mobility Related Information)]	
[デバイスモビリティコーリングサーチスペース (Device Mobility Calling Search Space)]	<p>デバイスがローミングされ、同じデバイス モビリティ グループに含まれている場合に、デバイス コーリング サーチ スペースで使用されるコーリング サーチ スペースを選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

デバイス プールの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースからデバイス プールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが割り当てられているデバイス プール、[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] に使用されるデバイス プール、またはデータベース内の唯一のデバイス プールなどは、削除できません。使用中のデバイス プールを削除しようとする、メッセージが表示されます。現在使用中のデバイス プールを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して別のデバイス プールに割り当てる。P.82-6 の「電話機の削除」を参照してください。
- 削除するデバイス プールに割り当てられているデバイスを削除する。P.82-6 の「電話機の削除」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** P.9-2 の「デバイス プールの検索」の手順を使用して、デバイス プールを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するデバイス プールを選択します。
 - ステップ 3** [選択項目の削除] をクリックします。
 - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除します。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。
-

追加情報

P.9-9 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [デバイス プールの設定 \(P.9-1\)](#)
- [デバイス プールの検索 \(P.9-2\)](#)
- [デバイス プールの設定 \(P.9-3\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.9-8\)](#)

